

何度も何度も何度も失敗をしたからこそ私は成功をおさめることができた  
I've failed over and over and over again in my life. And that is why I succeed.

2026.1.6

皆さん、おはようございます。

新しい年となる 2026 年・令和 8 年が皆さんにとって意義ある一年となることを祈念しながら、令和 7 年度 3 学期の始業式は、皆さんと共に色々な方々の言葉から学んでみたいと思います。

昨年末の終業式の日には百人一首大会とともに様々な交代式も行われました。新年のいまでもその際の皆さんからの素晴らしい言葉の数々が私の心と頭の中にとっても鮮明に残っています。各種委員やクラスター長そして生徒会総務の皆さんがとても良く考えて練り上げた言葉を紡ぎ発してくれていたことを、先生方からもうかがい、非常に感銘を受けました。

その中でトーマス・エジソンさんの「私は失敗したことなどない、ただ、うまくいかない方法を誰よりも数多く発見しただけだ」の紹介もありました。これも素晴らしい言葉というか、そのような経験や体験をしてきた人でないと発することができない言葉だと感じます。似たような言葉としてバスケットボールの神様とも呼ばれているマイケル・ジョーダンさんによる次のような言葉もあります。それは「私は生涯で 9000 回もシュートをミスし、300 試合も敗北し、26 回も試合を決するシュートを外してしまった。私はこれまで何度も何度も何度も失敗をしたからこそ私は成功をおさめることができた」です。

2 学期の終業式のおりにも「苦しみと楽しみは紙一重」という言葉を皆さんに紹介しました。これも似た言葉として、「人の苦楽は壁一重」、「人生楽ありゃ苦もあるさ」、「耐雪梅花麗」、「夜明け前の闇が最も暗い」等々、多々あります。同じように「失敗と成功も紙一重」です。これについて、現在の京セラ株式会社や KDDI 株式会社を創業した稲盛和夫さんは「失敗というのは心のあり方なのです」として「もしある方法で成功しなければ、成功するための別の方法を追い求め続けるのです」との言葉を残されています。

さて、今日の最後には皆さんの先輩であるデザイナーの三宅一生さんの言葉を紹介してみます。三宅さんは 2009 年 7 月 14 日のニューヨークタイムズ紙で当時のアメリカ合衆国の大統領にむけて「もし大統領が広島の大橋を渡ることができたならば、核廃絶への現実的で象徴的な一歩となるだろう」と呼びかけました。その 7 年後の 2016 年 5 月 27 日に当時のオバマ大統領が現職の大統領として初めて広島を訪問することになりました。それから今年は 10 年になります。この 10 年で果たして世界は良い方向に進んでいるのでしょうか。実は三宅さんの呼びかけの最後には「その一歩ずつこそが世界平和の確実な一歩へと近づくことになる」と結ばれています。まだ世界平和の実現は成功への道半ばですが、皆さんの先輩である三宅さんの言葉の次の一歩をつないでいけるのは、ここ東雲の皆さんなのかもしれません。